



「弱い自然」鳥海山の最高点：新山 2237.4米

自然と環境の診断を

吉野智雄

連日、新聞紙上をにぎわしている自然保護や環境保全の問題が、深刻な社会的関心事として焦点化されている今日である。

このことは、これまでに問題化され、論議されてきたこととは、質的に異なり、人類全体の課題として、いかに持続的な人類の生存環境を確保していくか、という、より切迫した緊急事態としての提言なのである。

それは、我が国の自然や環境の破壊度が極度に悪化し、その惨状をいたるところで見いだせるようになったからであろう。またこれらの惨状は、私たち人類の生存が危機に直面していることを、ようやく人々の間に認識されるようになってきたからにほかならない。

ところで、これらのことは、清潔な美しさ

にあふれ、また貴重な学術的標本地域といわれる山形の自然や環境にとっても例外ではなく、身近かに見いだせる現象である。特に観光開発、林道開発、地域開発などにより、この多様な山形の自然や環境は画一化され、貧乏化し、そして破綻し、人類を含めた生物共同体としてのバランスが破壊するほどの影響を、すでに局部的に見いだせるようになってきたのである。

新しい自然保護や環境保全の問題は、人類の生存環境の確保という見地から、全県的な規模で科学的に診断し、「強い自然」と「弱い自然」とに分離・指摘し、それに即応した総合的な保護・開発・復元の具体案を策定し緊急に実施することである。【植物担当】

—— 展 示 室 か ら ——



動物 両生類の仲間はイモリ、サンショウウオ類などの有尾目とカエル類の無尾目などにわけられる。現在までの調査では、県内には有尾目に先の2科、無尾目にヒキガエル科、アマガエル科、アカガエル科、アオガエル科と両方で6科・15種が生息する。サンショウウオ科のクロサンショウウオは、高山の水たまりなどでも卵を見ることができる。ハコネサンショウウオは、溪流附近に、トウホクサンショウウオは低山帯におおいようである。

以前、水辺にいっぱいいたカエルも今はめったに見ることができず、身近かに見られるのはアマガエルぐらいなり、トノサマガエルなどは貴重な種類になってしまった。県内の両生類については現在、山形大学の大津高生先によって再検討されている。〔奥山〕



植物 湯田川の乳イチョウ
—— 山形県の天然記念物 ——

鶴岡市大字湯田川温泉の由豆佐賣神社境内にある県内有数の巨樹である。崖際にあるので根元周囲は測定不能であるが、高地面での樹高は37mである。

写真のように、太枝と幹の一部から数本の乳柱が垂れ下がっているの、古くから田川の乳イチョウとして婦人の信仰をあつめてきた。とりわけ、乳の出ぬ婦人の参詣が後を絶たなかったといわれている。また、田川の人々の間にはこのイチョウの葉が散ってから降る雪は根雪であるが、その前に降る雪は根雪にならないといわれている。

このように多くの巨樹は、人々の信仰と気候を知る指標植物として大切に保護されてきたのである。〔吉野〕



地学 —— クジラの化石 ——

クジラ類は、海中生活をとりもどした最大のホニュウ類であり、歯クジラとヒゲクジラにわけられている。しかし、中新世以前のクジラ類のようすは、よくわかっていないし、

陸から海への移り変りを示す化石もまだ見つかっていないという。

クジラの化石は、県内で数ヶ所から発見されているが、それは、マッコウクジラの歯や背骨などであった。今春の特別展「地球上の生物のあゆみ」に展示されたクジラの化石(角川村産・新庄市田中智有男氏採集)は、国立科学博物館の長谷川善和博士の鑑定で、ヒゲクジラの下あごとわかり、本県でもヒゲクジラが存在が証明された。

クジラの化石の組織を偏光顕微鏡でみると骨の海绵状組織の中に、セキエイ、ホウカイ石などの鉱物が認められる。

ケースの中には、背骨や歯の化石のほか、現生のマッコウクジラの歯やヒゲクジラのヒゲも展示している。

〔菅井〕



考古 弥生時代

長い狩猟・採集を生活の基盤とする縄文時代の後に、大陸文化の強い影響を受けた新たな稲作を生活の基盤とする弥生文化を迎える。すなわち「コメ」づくりを中心とした農業社会が確立する。人口の増加にともない集落の形態は縄文時代のcampに変わり、低湿地への定住村落が数多く見られるようになる。後に政治的色彩を備えた「ムラ」は「国」に生長し、邪馬台国が誕生する。

弥生文化は朝鮮半島を経由して九州、西日本にその分布を広めやがて米・銅器・鉄器は東日本へも波及する。

山形県における弥生文化の様相は縄文文化の伝統を強く残したいわゆる東日本的な弥生文化が栄える。すなわち縄文様が弥生式土器の地文として施され、九州・西日本の土器とは多少異なる。〔佐々木〕



民俗 「弁当」コレクション

在来の弁当用器として「マゲワッパ」が利用されており、「ワッパ」「ヒツコ」「メンツ」「ごろびつ」などと呼ばれ、県内に多く分布している。「まげもの」には「マゲワッパ」とか「コバチ・総輪台」のような円形のもの、「ヒツワッパ」、「ヒツコ」「メンツ」などと呼ばれている楕円型のもの、その他に「供物台」「おぜん」などがある。

特に楕円形の「マゲワッパ」「メンツ」などが県民から重宝がられ、原料としてヒノキ、スギ、イタヤカエデなどを用い、原木をうすく裂いて、弱火で温めながら丸い形につくり、桜の皮を用いながら「まげもの」の一部をおさえている形が美しい。

県内各地の木地師がこれらを作ったが酒田の浜弁当などは美しい民芸品である。

〔板垣〕

県内博物館めぐり



鶴岡駅からバスで40分、峠を越えると加茂の港が見えやがて水族館に到着する。また酒田駅からはバスで1時間20分、砂丘地を通り

— 加茂水族館 —

さらに湯野浜温泉からは眺めのよい海岸沿いに加茂に至る。毎年春から夏にかけて小学生の修学旅行や海浜学校の子供達で賑いをみせる。内陸の子供にとって海は大きな憧れだが初めて水族館を見る子供の眼には、まるで別世界のように映る。その時の鮮烈な印象は生涯忘れることはない。こうして加茂水族館は昭和5年以来40年の永い間子供達の夢をそだて続けてきた。39年には改築されて施設も大きくなり、日本海の魚類300種・カニ・貝などの海産動物50種のほか熱帯魚（電気ウナギは人気者）やオットセイ・ペンギン・ペリカン・日本ザル等の動物も多く、家族連の客で近年ますます賑いをみせ年間20万人の観客を数える。入館料大人130・小中生80・幼児30円（団体割引有）館長 村上竜男氏（担当村川）

考古学における 洞穴・岩陰遺跡の重要性について

佐々木 洋 治

ヨーロッパの先史学や考古学を確立した一つの原因が洞穴・岩陰遺跡(Cave・Rock Shelter)の調査研究にあったことは誰れもが認めるところである。

洞穴・岩陰遺跡における層序研究は現在にみる数10万年にわたる人類の歴史を樹立しただけでなく、人間をとりまく自然界の変遷をも同時に明らかにした。すなわち各時期における動植物相の変遷と気候との関係において、古生物・地史学の発達はめざましくその貢献度は極めて大であった。特に考古学においてはその基本的的方法論というべき層序の研究は各期の編年確立の上に好例の資料を提供している。

日本において最近、ある特殊な遺跡として取扱われた洞穴・岩陰が再認識された。原因は現在日本最古型式の土器と考えられる隆起線文系土器群の発見以来のことである。

洞穴・岩陰遺跡は平地遺跡と異なり、当時の生活場が洞穴・岩陰という範囲に限定されるのに対し、平地遺跡の場合発掘調査において全ての生活場が再現されるとは限らないのである。又洞穴・岩陰においては多時期にわたり使用されているという事実から、その時期のパターンが層位的に立証されると同時に特に石灰質系の洞穴においては、当時使用された木器・骨角器・常食とされた種々哺乳動物等の骨角、又果実の残片が腐蝕することなく半ば化石化の状態で検出されるという遺跡の特殊性を具備している。

その結果当時の生活環境あるいは自然景観が復元されるわけである。すなわち人類文化において生活手段の変化が生活様式の変革を促すことである。換言すれば自然環境が変わればそれに附随して動植物相が変化することがあり、したがって動物が変わればそれに対する狩猟の方法も又変化せざるをえない、例えば



日向洞穴と Section

大形動物が横行する時期に小形の石器での狩猟は極めて困難である。考古学を研究する上に石器、土器の認識もいうにおよばず自然界の理解も大切である。

過去日本において約300に近い洞穴、岩陰遺跡が調査されている。中でも昭和30年第1次調査において日向洞穴内より出土した獣骨は当時の自然環境、すなわち生活背景をうかがうことが出来る。

I. 哺乳類：ノウサギ・ツキノワグマ・ニホンオオカミ・イス・タヌキ・キツネ・アナグマ・カワウソ・テン・イノシシ・ニホンシカ・カモシカ・ニホンザル等

II. 鳥類：ハクチョウ・マガン・カルガモ・マガモ・コガモ・ヤマドリ・カラス等

III. 両棲類：ヒキガエル

IV. 軟体動物：カワシンジュガイ・インガイ・マツカサガイ・カラスガイ・ニホンシジミ・ハマグリ・カワタニシ・キセルモドキ・トバマイマイ・オオタキマイマイ等

上記の自然遺物より日向洞穴を中心とする周辺の地理的気候の背景が推測される。

住居として利用された洞穴・岩陰の立地は主として南向きの開口を持つ洞穴。特に日照時間の長いことである。他に川又は池、湧水が存在する地域にある洞穴・岩陰が求められることである。以上のことを前提として洞穴が利用されるのであるが、どういふわけか概して縄文時代草創期においてはもっぱら洞穴、岩陰を好んで使用しているという事実である。特に隆起線文系土器を出土する遺跡は大半が洞穴に限られており中でも主な遺跡は長崎県福井、愛媛県上黒岩、岐阜県九合、埼玉県橋立、新潟県小瀬ヶ沢、同室谷、長野県荷取、山形県日向、同1ノ沢・同火箱岩、同尼子の遺跡はすべて洞穴、あるいは岩陰を利用している。何故に縄文式文化初頭において洞穴に住まわなければならないのであろうか？ある種の慣習であつたのだろうか？あるいは住まわなければならない外的原因があつたのかもしれない。ヨーロッパにおいては旧石器時代は寒さから身を護るために多数の洞穴を利用したと考えられている。日本において現在旧石器時代と考えられる遺跡が主に平地より発見されており、新石器時代に該当する遺跡が洞穴・岩陰より発見されていることは何を意味するのであろうか。自然界における人間の共存と過去における文化の背景を明らかにすることは明日の人類社会への大きな糧となることであろう。以後洞穴遺跡研究の成果がまたれる。

特別展 「鳥海山の自然」－はじまる－

当館では、特別展として「鳥海山の自然」が特別展示室で開催されている。

鳥海山は、最高点2237.4mで東北第1の高山である。そして、長いすそ野をもち、底面積も広く、その直径が20kmをこえる円錐形の火山である。この美しい成層火山は、別名「出羽富士」ともよばれている程である。

鳥海山の動物、植物、地学については、極めて興味深いものがある。このたびの特別展は、およそ次のような要領で行われている。

○ 期間 9月5日から9月30日まで

○ 内容

- ・動物
 - 動物分布上の特色
 - 高山草原の動物
 - 山麓湧水地帯の魚類
 - 高山性の昆虫相
- ・植物
 - 植物分布上の特色
 - 研究史に残る鳥海山の植物
 - 火山荒原への植物の侵入



・地学

- 鳥海火山帯
- 鳥海火山の成因と地質構造
- 溶岩の性質

写真は、鳥海山頂上付近から採集したパン皮状火山弾である。岩石は、複輝石安山岩である。その化学分析（山形県鉱業研究所）の結果、SiO₂は61.50W%を表わした。これは、鳥海火山の岩石としては酸性な方であろう。また、この岩石について、アルカリ礬土指数をもとめてみると、カルクアルカリ岩の性質を示している。 [菅井]

一飯豊町上屋地遺跡・長者原遺跡発掘調査一



上屋地遺跡発掘状況

当館の今年度調査研究事業として、両遺跡の発掘調査が8月7日から同11日まで実施された。上屋地遺跡の調査は昨年調査に引き続き、すでに発見された石組遺構の性格をたしかめるべく、既設トレンチを北の方向に2m延長し発掘したところ、地表下10乃至15cmより、石鏃7点・石匙2点を得た。

長者原遺跡は、中津川小学校の真向いにあ

たる、白川右段丘上に位置する縄文時代晩期の遺跡であるが、このたび、遺跡を含む水田一帯が基盤整備事業により壊滅のおそれがあるため、緊急に調査したものである。遺跡は開田の折の整地作業により殆ど破壊されていたが、土器片少量と石鏃3点・石べら7点などを収集した。



長者原遺跡 石べら出土状況

博物館を見学して

特別展 「子どものあそび」を観覧して
県庁前の町角に「子どものあそび展」のポスターがあり、久しぶりに博物館を子どもたちと一緒に訪れた。インターハイがあったので館前も一段と美しくなっていた。

「子どものあそび」展は県下で一室に展示したのが、はじめてであり、子どもたちよりも私が強い興味をもって見学することができ、幼ない頃の思い出を子どもたちに話をしながらみて廻った。

最初に民俗の展示だから庶民的な資料ばかりと考えていたが豪華なひな・武者人形がありがっかりしたが、県内の風絵の種類がこんなに沢山あったのかと驚いた。郷土人形は手にとって見たい気持ちにかられた。

このように大人も子どもも、ともに楽しめる展示会を是非多くして頂きたい。

(山形市 一公務員)

このあいだは、大谷小学校の四年生わたしたちに、博物館を見せていただいてありがとうございました。

わたしたちのまだ一度も見たことのない物もあり、わくわくして見ていました。何百年も前のがいこつ、かえる、へび、など気もちわるくなるようなものもありました。みんなきよろきよろして見ていました。むかしのそりなどがたくさんありました。それにむかしの住まいなどもあり、ほん物そっくりのがつくってありました。

学校で遠足の図画を書いた時、博物館のなかのようすを書いた人がたくさんいました。みんなそれほど、いんしょうにのこったのでしょう。

ほんとうにありがとうございました。

朝日町立大谷小学校 4年 志藤滝子

＊ ＊ ＊ た よ り ＊ ＊ ＊

—— 7・8月に開かれた 特別展・その他 ——

○子どものあそび展

7月11日から8月31日までの間「子どものあそび展」は県民の多くの人々からご協力をえて開催された。期間中は来館者も多く、子供、大人の両方に非常に好評で盛会のうちに終ることができました。ご協力していただいた方々に深く感謝いたします。

○夏休み特別展

毎年継続行事として行われている「夏休み展」が今年も下記のように行われた。

期 間 8月5日～8月31日

夏休み自由研究教室(相談日)

植物 8月8日

地学、動物 8月18日

人文(社会科) 8月15日

来年もますます利用されることを望みます。

○第16回古文書解読講座

今まで毎年山形県立図書館で開催されていた古文書解読講座は今年も下記のように山形県立博物館を会場にして行なわれた。

出席者は98名であった。

期日 昭和47年8月17(休)～8月20(日)

会場 山形県立博物館

主催 山形県立図書館、山形県立博物館

講師および主題

山形大学教授 工藤定雄氏

大名と武将 一出羽国諸藩成立史料を中心に—

山形大学名誉教授 柏倉亮吉氏

修験史料 一大井沢を中心に—

○皇太子同妃両殿下ご来館

インターハイ山形大会にご臨席された両殿下は8月1日約1時間10分にわたって山形県立博物館をご視察された。

なお7月22日は三笠宮寛仁親王殿下もご来館ご視察された。

9・10月行事予定

特別展 「鳥海山の自然」

9月5日から9月30日まで

特別展 「鳴遣跡」

10月12日から11月30日まで

講演会 「山形県の古代農民の生活」

10月22日(日) 講師 柏倉亮吉先生

山形県立博物館ニュース 第9号 ©

昭和47年9月1日 発行

山形市霞城町1番8号(〒990)

山形県立博物館(TEL02-1111)